

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000310		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園川上		
所在地	佐賀県佐賀市大和町川上大字川上587-1		
自己評価作成日	平成27年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年11月4日	外部評価確定日	平成27年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年間の重点目標を馴染みの場所や行きたい場所にお連れし、ご利用者様の活動領域を広げることで生活の活性化をはかるとし、全体のドライブを主に行い、個別にて対応して取り組みを行なっている。ご自宅周辺のドライブを行ったり、お客様から新聞や県の広報などをご覧になられ行きたい所の希望を言われたり、季節毎の花見などへのご案内をしている。また、お料理会やレクリエーション等も行うなど生活の活性化に取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれた古くからある住宅地の中に、地域に溶け込んで建つグループホームである。大きな柿の木や多くの種類の野の花が広い敷地のまわりいっぱい自然に咲いており、何となく落ち着いた田舎の雰囲気がある。雑草と共存して多くの花が咲くのは、花好きの利用者が多いためであるという。元気でよく喋り自分の気持ちを言葉で表現することができる利用者が多く、コスモスが満開という新聞やテレビの情報からすぐにコスモス見物に行き、他の場所でも美しいという情報を入れればすぐ別の場所にも見物に行っており、利用者の希望・要望を即実行に移すフットワークの軽さが、この事業所の特徴と思える。玄関に入ってすぐに大きな掲示板があり、直近のイベント写真が飾られていて、訪れた人が最近利用者に何があったかすぐ理解することができる。食事風景もにぎやかで、テレビを消して食事を楽しみ、雑談を楽しまれている。自宅に居る時は黙って一人で食事をしていたが、ここでは声を出して喋ることができるし、食後の歯磨き習慣をつけてくれて嬉しいという利用者の言葉があった。法人グループとは社内LANでつながれており、疑問点や何かあった時は何でも書き込み相談ができるのでいつも同じ視点で支援にあたることができる。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・処遇モットー及び事業目的を玄関に掲示、毎月の部会において唱和することで周知を図り実践につなげている。また独自の目標(川上コンセプト)を立て実施している。	利用者・家族・地域の人々が、安心した生活や活力ある生活が送れるように、職員皆で取り組むという概念を理念としている。概念は、冷蔵庫や洗濯場・タイムカード側など目につきやすい所に貼られ、介護の骨格となる概念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	川上事業所の敬老会に地域のかたがたにも参加していただき、地域の区役や祭りなどにお連れした際には暖かいおもてなしを受けている。	自治会に入会し、区役を引き受けるなど地域との関わりを大切に支援を心がけている。経営母体法人合同の夏祭りには、子供も含めた地域住民も参加されている。毎年正月には近所の神社からご招待があり、体調の悪い人以外は利用者全員で参拝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での出張講座を開催している。地域・事業所の行事への参加を通じて情報提供できていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。行事や入退居等の状況をご報告し、ご家族様、民生委員、地域包括支援センターから情報をいただいたり、意見交換を行い、サービス向上を目指している。	運営推進会議は2か月に1度開催されている。会議では事業所から行事や利用者の状況を報告するだけでなく、委員からそれぞれの立場での情報を提供いただく等委員が積極的に関われるよう働きかけがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設入居状況を報告し、受け入れ状況を把握していただいている。また情報公表を行うことにより、自施設のサービスをわかりやすいようにしている。	市町担当との連絡は、地域包括支援センターや母体法人本部を通して行っている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通して協力関係を築いており、問題点や分からないことがあればすぐ相談でき、助言をいただける関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は初任者研修や園内研修を通じて身体拘束をしないケアについて十分理解しており、方針・マニュアルもいつでも閲覧可能な状態にしている。夜間の施錠の他はいなかる拘束も行っていない。	拘束防止マニュアルがある。職員は身体拘束に関する研修を受け、言葉による拘束もないように気を付けて支援にあたっている。玄関や居室は施錠しておらず、利用者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	初任者研修や園内研修において理解を深めるとともに、指針・マニュアルもいつでも閲覧可能な状態にしている。入浴や衣類交換の際全身確認の観察を行い、現在まで虐待の発見はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、成年後見制度に関する研修参加はない。各職員でパンフレットや本を見て知識を得る努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等の書面に基づいて説明を行い、ご理解、同意をいただいている。また不明な点がないか確認、契約後もいつでも相談出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置、苦情受付の概要やオンブズマン委員会についての情報を掲示している。面会時直接伺う他、年2回アンケートを実施、集計し利用者、ご家族の意見を反映させることで満足度の向上を図っている。	職員は利用者や家族とできるだけ数多く話すことを心がけ、意見や要望の把握に努めている。重要事項説明書に苦情申し立て先を明記し、契約時に説明している。出された意見や要望は検討し、外出の機会を増やすなど、できることはすぐに対応するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や日々の業務の中で得た職員の意見や提案は、会議や直接申し反映する努力をしている。	毎月開催するグループホーム部会と2か月毎に開催される法人グループの合同部会の他、年2回の個別面談が実施され、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。出された意見や要望は検討し、勤務形態の変更など運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いられている。また、福利厚生にも力を入れており、職員が働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員にはOJT実績表による評価を実施。園内研修会の開催、外部への研修参加、資格取得に向けての研修等々、年間計画に沿っての機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等にて他施設見学の機会を設けており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまで十分な情報収集を行うとともに、ご本人との面談において不安や要望を確認、安心できるようお話している。入居後は特に互いの理解や交流を図り信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際はご家族の不安や要望を確認、契約の際には情報提供や説明を行いながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報を元に分析を行い、暫定プランを策定している。経過を観察し必要に応じて変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	処遇モットーに基づき職員間で情報を共有しながら、ご自分の身の周りの事は行っていただくようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や受薬等は原則としてご家族にお願いし、定期的に来園いただくようにしている。状況に応じて連絡、報告を行い、ご家族の協力を依頼したり助言を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際自宅の近くに立ち寄るなど、馴染みの場所に触れたり話題にする機会を提供している。またご近所の方等が面会に見えた時には案内するなど交流を援助している。	入居契約時にアセスメントをとり、馴染みの人や場所との関係を把握するように努めている。昔、仕事で関わった場所や物を見学に行ったり、生け花などの趣味に参加していただくなど、利用者の生活歴を大切にした支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個性や関係性を把握し、居場所や席の配置にも配慮している。また状況に応じて交流の橋渡しを行っている。ご利用者同士和気あいあいに歌やお話を楽しまれたり、助け合われたりの場面も多く見られている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居された場合もお見舞いし、失礼のないよう配慮しながらご様子などを伺う様に努めている。退院後についての相談を受ける場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の交流、会話の中でご本人の希望や意向を把握するように努めている。ご本人との意思疎通が困難な場合も、生い立ちや嗜好、ご家族の希望も考慮しながら、より快適に過ごしていただけるよう検討している。	職員はアセスメントを通し、利用者の事をよく理解してケアにあたるように心がけている。他人と一緒に発語がなくても個別では話せる人など、その人に合った接し方で思いや意向を聞き出すように努めている。感じ取った意向や希望は職員皆で共有し、ケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集やご本人、ご家族との会話の中で生活歴や家族構成、サービス利用状況などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の心身状態や有する能力については、ミーティング、業務チェック表、連絡ノート、毎月の部会でのケース検討において情報が共有され、職員全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎、必要時にケース検討を行い、そこでの意見やご本人、ご家族からの要望、課題分析をプランに反映させケアの統一を図っている。	具体的な介護計画が立てられており、目標や援助内容が分かりやすく書かれている。毎日、計画実行表に記入して確認がなされ、毎月の個別実行表での評価や会議と合わせて、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化については業務チェック表、健康管理表や連R区ノートに記入し、健康管理表には1ヶ月まとめ記入。新しく実施する内容は連絡ノートにて周知を図り、必要に応じてプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望があった際には可能な範囲で対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、消防訓練などを行い安全の確保を保っている。地域の行事や外出の際にも地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関について説明、希望者は主治医を変更されるが、基本的にはかかりつけ医を主治医にされる。その際は家族を通じ情報交換を図る。必要と思われるときは受診を勧めたり受診等を援助している。	入居前のかかりつけ医の継続受診を基本としているが、利用者や家族の意向で協力医への変更も支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、職員での対応もなされている。家族送迎時や職員送迎時、どちらの場合も受診結果は適切に説明や報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護職員を配置、必要時応じて相談、連携を図っており、緊急時には連絡できるようになっている。ご家族での対応が困難な場合は看護職員や介護職員により受診、受薬も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、ご本人の情報を速やかに伝達できるよう努めている。入院後は数日たってお見舞いし状態把握に努めている。退院時にはサマリーを作成していただいたり留意点を確認、把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針について契約時に説明を行っている。ご希望の際には、どのようなケアを望まれているか、何ができるのかを確認し職員間で共有している。また、かかりつけ医への報告を行い連携の強化を図っている。	契約時に、本人及び家族に看取りに関する考え方を説明し同意を得ている。重度化するなど、利用者の状態に合わせて家族と話し合う体制ができており、家族と主治医・事業所は方針を共有している。これまで複数の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制、マニュアルを作成、常備しており、日中、夜間とも急変時に対応できるようにしている。救急蘇生法等の研修も受講し介護職として行える医療行為も学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上防災訓練を実施し、1度は消防署立会いのもと助言、指導をいただいている。夜間火災時には地域の消防団の方が応援して下さる事になっており連絡簿にも記載している。	年2回の防災訓練は、利用者も参加して行われている。訓練後の記録は写真入りで残されており、分かりやすく整理されている。震災時にはどう行動すればよいか等の訓練も実施している。	
呼び名					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する言葉遣いをするように努め、排泄や入浴の介助の際には特にプライバシーに配慮、対応している。	職員は、利用者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意し、年長者として敬意を払った対応を心がけている。個人が特定できる写真は慎重に取り扱われ、外部には出していない。もし、外部に出る時は、必ず確認をとるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で食べたいものや出かけたところ、したい事等を伺っている。自発的なご希望については出来るだけ対応し、自己決定の尊重を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示できる方にはできるだけその意思に沿っているが、レクリエーションへの参加や離床を勧めることもある。意思表示の困難な方には状態や表情等を観察しながらその方の状況に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んでいただいたり、介助が必要な方には気候やTPOにあった物を着ていただいている。洗面後等、鏡を見ながらご自分で整容していただき、おしゃれを意識されるよう援助している。自分用の化粧水を使用される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの注ぎ分けや台拭き、片付けや食器洗い等、ご利用者様の状況を踏まえたうえで意思を確認しながらお願いしている。昼食は職員も一緒に食卓でいただき、会話も楽しんでいただいている。	昼食は、法人グループの厨房で作られているが、朝食と夕食は利用者の要望や手元にある食材を見ながら柔軟に決められている。弁当を持参しての外出や、外食など、食事が楽しみとなるような取り組みもなされている。利用者同士よく喋り、殆どの方が完食し、元気にぎやかな食事時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心に、肉、魚を取り入れ栄養バランスを考慮している。献立、食材の記録と写真を毎月提出、栄養士のコメントをもらっている。必要時は栄養士に相談している。水分は随時提供、食事摂取量も確認し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には言葉かけを行い、介助が必要な方にはできないところを援助し、毎食後口腔ケアをしていただいている。入れ歯の方は夜間お預かりし、洗浄剤に浸し洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。布パンツの方はその日の体調によってパッドや紙パンツを使用するなど柔軟に対応している。自尊心やプライバシーに考慮しながら排泄を勧めるようにしている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。職員は、利用者の行動を察知するよう努めており、声掛けや誘導でトイレで排泄できるよう支援している。日中は、ほとんどの利用者がご自身でトイレに行かれており、自立されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を使用した飲み物や野菜や根菜類を多く取り入れた食事を提供しているが、慢性便秘の方は内服の処方を受けていただいている。必要な方については排泄チェック表にて排便の有無を確認し、状態に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については個々の希望を伺ったり、タイミングを考慮して実施している。また入浴中は会話によりリラックスできるよう援助している。	入浴は、隔日で個浴を基本としている。入浴時を着替えの時と考えており、入浴しない日でも下着は交換して清潔に保つよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご様子に応じて静養を勧めたり、室温や照明にも配慮し1人ひとりに応じた支援に努めている。自力で体位交換のできない方には定期的に援助を行い安楽な姿勢で休まれる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は服薬受け取り表とともに個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。処方変更のある際には連絡ノートや業務チェック表に記録し周知を図るとともに様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や昔の活動、嗜好品等の情報を収集し、できるだけ継続できるよう支援している。お花しかいや歌会、外出等気分転換や楽しみ事を提供。また、能力に応じて生活活動の役割の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体では季節ごとお花見などのドライブを実施。また個々の方も希望される時には外出で外食を楽しまれる方もおられる。	利用者の要望に沿って外出の機会を多くとっている。花が好きな人が多く、年間を通しての花見ドライブや買い物、夕食の食材買い出しの他、近所への散歩など外出の機会が多い。また、ウッドデッキを活用して日向ぼっこやお茶会を開くなど、建物内にこもらない支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力やご希望に応じて買い物外出の援助を行っている。財布を持っている方もいらっしゃるがほぼ使っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の際にはご家族様の状況を考慮しながら電話等の対応を行っている。またご家族より電話、要望があればご本人様におつなぎしている。遠方のご家族様へのお手紙、年賀状や暑中お見舞いを書いていただくなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や室・温度は手順書に基づき、管理、環境整備管理表等においてチェックを行っている。また季節の花を飾ったり観葉植物を置くなど、居心地の良い空間となるよう努めている。	毎朝、必ず窓を開けて換気することを心がけ、心地よく過ごせるように支援している。居間兼食堂には机やソファなどが置かれ、利用者は思い思いの場所でゆっくりと過ごしている。掃除をこまめにし、次亜塩素酸消毒液などで拭き上げ、殺菌・消毒にも心がけている。栗のイガや野の花、手芸作品などで季節を感じる雰囲気づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には食卓テーブルとテレビ前のテーブル、ソファがあり、お好きなおで過ごされる。窓際やウッドデッキで庭の景色を楽しまれる方もおられる。楽しい雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に愛用の家具や寝具等の持参を勧めているが新たに購入される方もある。小物や写真等をかざられたり個性が見られている。	入居契約時に、自宅で使い慣れた馴染みの品などの持ち込みを勧めている。ダンスやソファ、加湿器・テレビ・手芸品・写真などで、居心地よく過ごせる居室づくりが支援されている。大正琴を持参されている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設時からバリアフリーになっており、床はクッション性のある素材を使用して安全に努めている。建設の構造はシンプルでわかりやすくご自身での移動もしやすくなっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない